

吹田市教育ビジョン（骨子案）第2回意見聴取会での御意見と対応

第2回意見聴取会 資料ページ	項目	学識経験者等からの御意見	対応
	全体	用語解説にあるものは、本文にアスタリスクをつけるなど、わかりやすくなる対応を。	本文中にアスタリスクをつけ、用語解説があることが分かるようにしました。
11～12	体系図	基本方向と施策との関連性が分かるよう、色を変えるなどの工夫をしてはどうか。	2色刷りのため、色での対応は難しいため、レイアウト上、可能な範囲で基本方向と施策をくっつけ、関連性が分かるよう配置を行いました。（P.11～12）
14	重点課題	3段落目の「枠組みを超え」が「枠組みを踏まえ」ではないか。枠組みがあつていろんな施策があるが、その中で連携して総合的に取り組むということではないか。この表現では枠組みがあつて、それとは別に何かをするようなイメージを受ける。	「基本方向の枠組みを超え」を削除し、続きを「複数の施策が連携し横断的、総合的に取り組んでいく必要のある課題と～」に修正しました。（P.14）
15	重点課題 1	グラフから読み取れる現状を記載してはどうか。	「各学校において、平成25年（2013年）に施行されたいじめ防止対策推進法に規定されたいじめの定義についての理解が進み、積極的認知が行われた結果、いじめの認知件数は増加しています。引き続き、いじめの早期発見や早期解決に向けた取組を進めていく必要があります。」を加筆しました。（P.15現状と課題一つめの○）
16	重点課題 1	「（仮称）いじめのない学校プログラム」について、内容を盛り込めないのか。	P.16の2（1）の「（仮称）Suita Friendly School Program【生徒指導編】を活用し」以下の文章がプログラムの内容を示すものとなっているため本文は現行のままとしますが、詳細は用語解説に加えしました。（P.42 用語解説に加筆）
16	重点課題 1	「各学校のいじめに対応する委員会等を活用し」を「委員会がすべての学校にあり、それを活用し」とした方が、今どこまで進んでいて、次に何が必要かわかるので積極的である。	「すべての学校に設置しているいじめに対応する委員会を活用し」に修正しました。（P.16の2（1））

第2回意見聴取会 資料ページ	項目	学識経験者等からの御意見	対応
16	重点課題 1	前回には記載のあった「取組の検証」の項目がなくなっているのはなぜか。	この重点課題だけでなく、この計画そのもの取組の検証が必要なため、新たに「Ⅷ計画の推進」の単元を設けました。(P38加筆)
26	基本方向 2	現状と課題の一番下の○、「コミュニティスクールの設置は～」からはじまっているが、これまでの地域と学校との取組や築いてきた信頼関係を書いたうえで、コミュニティスクールに言及した方がよい。	「各学校はこれまで、家庭・地域の支援のもと、連携、協働して教育活動を推進してきました。今後の持続可能な学校運営の仕組みづくりを検討するにあたっては、コミュニティスクール（学校運営協議会制度）の設置など、国や府の動向を注視しつつ、地域とともにある学校づくりの推進が必要です。」に修正しました。 (P.26一番下の○)
26	基本方向 2	現状と課題の下から3番目の○、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は小学校の先生にはわかりにくい部分がある。後ろの用語解説まで見ないとわからないのでは理解がされにくい。	本文中にアスタリスクをつけ、用語解説があることが分かるようにしました。
27	施策4	吹田の小中一貫教育は、目指すべきゴールのどこまで到達しているのか、次の課題は何なのか、現状と課題に書いてはどうか。また、「最適化」という言葉が分かりにくい。	施策4を「義務教育9年間を一体的にとらえ、小・中学校緊密な連携のもと一貫性・継続性のある学習指導や生徒指導を行います。各中学校ブロックにおいて、小・中学校共通の教育目標である「めざす子ども像」を設定し、その実現に向け、新学習指導要領が目指す学力の向上、各ブロックの特色ある取組を推進します。」に修正しました。 (P.27)
27	施策5	「知識・技能」以降のところ、国の枠組みそのままの表現。吹田市はどう受け止めているのか。吹田市なりの咀嚼が必要。また「言語力の確実な育成」はおかしい。「着実な」とか「確かな」ではないか。	施策5冒頭を「変化の激しい社会において、さまざまな課題に対応できるよう、新学習指導要領がめざす「知識・技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力・人間性」を育みます。各教科、領域を横断した言語活動の充実をもとに、児童・生徒が主体的・対話的で深い学び～」に修正しました。(P.27)
28	施策9	「虐待等要配慮児童・生徒」とあるが、「要配慮」という言葉は適当か。「虐待」は「子供虐待」と書く。虐待を受けた子に必要なのは配慮ではなく「支援」。いじめをした子には「指導」が必要。「配慮」という言葉にひっかかる。	「要配慮児童・生徒」を削除しました。(P.28) (P.26現状と課題の3つめの○も同様)
30	施策13	市立図書館が学校教育とどう連携するかについて、「子供の読書活動の支援」だけではないのではないか。図書館を活用した、探求、調べ学習が重要になってくる。書き方をもう少し工夫できるのではないか。	1段落目の1文目、「図書館では、生涯にわたり、さまざまな興味・関心を持つ市民の知的好奇心を充足させるとともに、課題解決を支援する場を目指します。」に修正します。2段落目、「また、学校図書館に配置されている読書活動支援者へのサポートプログラムの実施や調べ学習などで必要とする図書の貸出等により学校図書館を支援します。」に修正しました。(P.30)

第2回意見聴取会 資料ページ	項目	学識経験者等からの御意見	対応
36	施策23	進路指導は経済的なことだけではない、子供の学力だけでなく、興味関心、持ち味、個性、生活状況、それらを踏まえて進路先を見つけるのが進路指導。施策23は権利のところなので適当ではないかもしれないが、施策7や8など、しかるべきところに記載が必要。	基本方向2の現状と課題の上から4つめの○の最後に、「小中一貫教育やキャリア教育の視点として、自ら目標を持ち主体的に進路を選択決定する力や態度を育む取組が必要です。」を加筆しました。(P.26)
1	策定の趣旨	これまでの総括、そのうえで本市の課題となっていることなどを盛り込んでどうか。	本市の教育の状況の単元、および重点課題、基本方向ごとの本市の現状と課題の記載により、これまでの総括をお示ししています。
2	社会潮流	子供の貧困についても触れるべきではないか。	国の動向(5)として、挿入、加筆しました。(P.3)
10	本市の教育の状況	(3) 教員の年齢構成、女性の産・育休の話だけでなく、後半の施策にも書かれているのだから、スクールリーダー層が少ない記載もいるのではないか。	標題を「教員の経験年数・年齢構成」とし、説明文に「経験年数が10年以下の教員が約5割を占めています。(P.19) 校内の教育活動の中核を担うミドル・リーダー層の育成が必要です」を加筆しました。(P.10)
10	本市の教育の状況	(4) チームとしての学校は、吹田市は国や府に上乘せして独自の取組を行っている。吹田市の独自性の表れなので、しっかりアピールした方がよい。	説明文に「本市独自の取組として」を加筆しました。(P.10)
		吹田のいじめ問題は、市民の関心も高い。1ページの「策定の趣旨」か14ページの「重点課題」でそのことに触れてはどうか。	重点課題1のいじめのない学校づくりの冒頭で、この課題を取りあげるに至った経過を記載しています。